TOTO

住宅用屋外手すり 壁付受ブラケット（L付）壁付エンドブラケット・壁付エンドベース

TS139B型
TS139BE型
TS139B2型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

施工の際には、手すりに同梱の施工説明書を必ずお読みください。

1. 安全上の注意(安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

●この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負うことが想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

⃠	⃠は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「禁止」を示します。
❗	❗は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

⚠ 警　告

禁止

一般住宅の歩行補助手すり用途以外で使用しない
転落防止用防護柵やベランダの柵、窓格子、断崖地など、転落のおそれがある場所に設置しない
手すりの破損や脱落により重大事故につながるおそれがあります。

修理技術者以外の人は分解、修理、改造は行わない
TOTO製以外の部材と組み合わせて施工しない
手すりの破損や脱落により使用者がけがをするおそれがあります。

⚠ 警　告

必ず実行

強度のある壁に取り付ける
取付穴の周囲にシーリング剤を塗付する
当社指定の固定金具を使用する
取付完了後、必ず点検を行う
手すりバーは継手の奥まで確実に差し込んで取り付ける
手すりバーと継手の固定は、止めビス先端をインナープラグの溝にかけて確実に締め付ける
手すりの破損や脱落により使用者がけがをするおそれがあります。

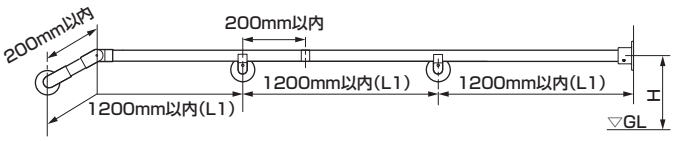
⚠ 注　意

必ず実行

商品の取り扱いに注意する
破損や変形、傷つきにより組み立てできないおそれがあります。

2. 取付方法の注意

適切な設置例



※アンカー固定式と壁固定が混在する部分のL1寸法は900mm以内とする。
※標準的な高さHは750mm程度とするが、使用者にあわせて取り付け高さを決める。

重 要

傾斜した手すりの場合は、傾斜寸法で算出する

⚠ 警　告

必ず実行

各部材は指定寸法に従って取り付ける
手すりの破損や脱落、取付面が壊れたりして、使用者がけがをするおそれがあります。

⚠ 警　告

禁止

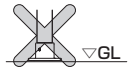
手すりを1本のブラケットのみで支えない

ブラケット間に2個以上のジョイントを設けない

壁付エンドベースに、片端（R付側）・両端エンドバーを取り付けしない

2個のブラケットの場合、ジョイントは設けない

壁付エンドベースは床面に設置しない



コーナー部にフレキシブルジョイントを使用する場合は、フレキシブルジョイントの少なくとも片側には、2個のブラケットを設け、このブラケット間にはジョイントを設けない

手すりの破損や脱落、取付面が壊れたりして、使用者がけがをするおそれがあります。

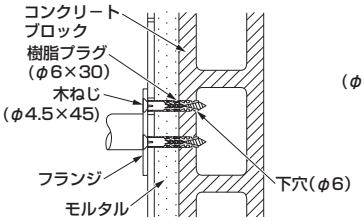
裏面へつづく

3. 壁固定

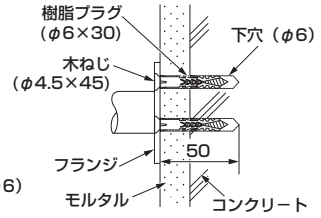
壁付受ブラケット(L付)・壁付エンドブラケット・壁付エンドベース

①心出し後、φ6mm、深さ50mmの樹脂プラグの下穴をあける。※1・2
②樹脂プラグを下穴に軽く打ち込む。
③木ねじをフランジの取付穴より取り付ける。※3・4
必要に応じて、取付面とフランジの間に、同梱の座金(1カ所当たり2枚まで)を使用して垂直に調整する。

コンクリートブロック下地の場合



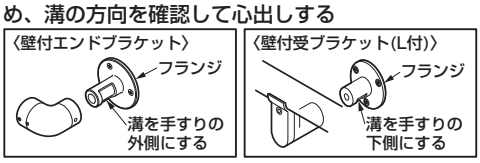
コンクリート下地の場合



⚠ 警　告

必ず実行

※1 ブラケットによりフランジの溝の方向が異なるため、溝の方向を確認して心出しする

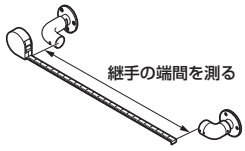


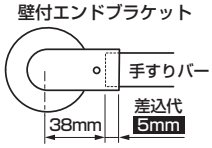
※2 コンクリートにφ6mmの下穴をあけることのできるドリルを使用する
※3 穴の周囲にシーリング材を必ず塗布する
※4 木ねじを強く締めすぎない
手すりの破損や脱落により、使用者がけがをするおそれがあります。

4-1. 手すりの組立

手すりバー長さの算出・切断

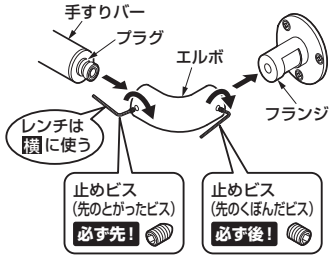
①手すりバーの長さ測定を行う。
②手すりバーを切断するため、長さを算出する。
<手すり長さの算出方法>
測った寸法に、手すりバー差込代(右図 白又キ寸法 参照)をプラスして算出する。
③手すりの切断
手すり表面を養生し、切断機にて手すりの軸に対して垂直に切断する。
切断面のバリをヤスリか面取器で取り除く。





壁付エンドブラケット

①エルボにプラグを差し込む。
②止めビスは、六角棒レンチ(呼び寸法3)でしっかり締め付ける。
③エルボをフランジに差し込み、止めビスでしっかり締め付ける。



⚠ 警　告

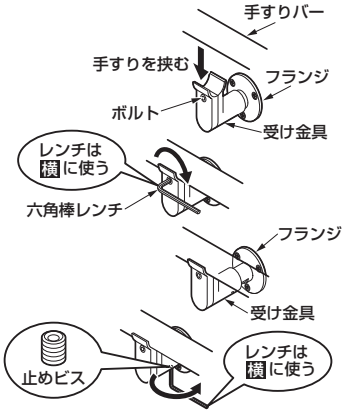
必ず実行

手すりバーとプラグは、すき間がないように差し込む
手すりバーのプラグは継手の奥まで確実に差し込んで取り付ける
手すりバーが外れて、事故やけがの原因になるおそれがあります。

4-2.

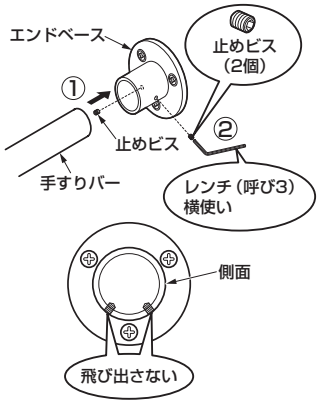
壁付受ブラケット(L付)

①受け金具で手すりバーを挟む。
②ボルトを、六角棒レンチでしっかり締め付ける。
③フランジに受け金具を差し込む。
④止めビスを、六角棒レンチでしっかり締め付ける。



壁付エンドベース

①手すりバーをエンドベースの奥まで差し込む。止めビス(2個)の向きは下側に向ける。
②止めビスを、六角棒レンチでしっかり締め付ける。
※表面から止めビスが飛び出していないことを確認する。



⚠ 警　告

必ず実行

手すりバーはエンドベースの奥まで確実に差し込んで取り付ける
手すりバーが外れて、事故やけがの原因になるおそれがあります。

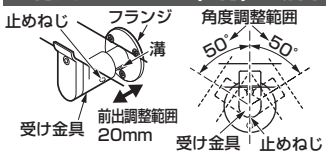
5. 各部の調整

壁からの前出調整

壁付受ブラケット(L付)・壁付エンドブラケット

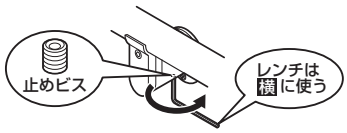
①受け金具、またはエルボの側面にある止めビス(1カ所)をゆるめ、壁からの前出、または手すりの角度を調整する。

壁付受ブラケット(L付)の場合



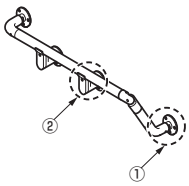
壁付エンドブラケットの場合

②六角棒レンチでしっかり締め付ける。



6. 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認する。



ガタツキの確認

手すりにガタツキがないか確認する。

接続部はしっかり組み立てているか

部位	説明書参照項目
①プラグは奥に突き当たるまでしっかり入っているか (エルボ / プラグ)	4. 手すりの組立 参照
①壁付エンドブラケットボルト、止めビスはしっかり締めているか	
②壁付受ブラケット(L寸)ボルトはしっかり締めているか	